「差異」が生まれにくい授業づくり

浦 珠美

○ユニバーサルデザインの授業とは

「発達障害等の有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しく『わかる・できる』を目指して工夫する授業のデザイン、それがユニバーサルデザインの授業」(京都府総合教育センターの資料より)

○5つのルール

ルール1：全員参加の環境を整えよう！

ルール2：関わり方を見直そう！

ルール3：授業の組み立てはシンプルにしよう！

ルール4：スモールステップを意識しよう！

ルール5：習熟・活用のシステムを作ろう！

アイデア 8. 子どもの得意な分かり方を知ろう(ルール1より)

例：図が好きか、式を立てると安心するか。順を追って説明されるのが好きか、答えを先に言った後に説明されるのが好きか。・・・

教師にも分かり方の偏りがある。「こうすると分かりやすい」という考え自体に偏りが・・・！
→「どうだった？」と子どもに聞く。子どもの説明で分かる子も多い。

アイデア 23. 算数的活動は目的「何のために」、手順「何をするか」を明確に(ルール3より)

①活動はシンプルに②教師の考えた手順やルールを押し付けるのではなく子どもと確認しながら行う③操作の手順は提示する④テンションの上昇は一旦静かにする時間を作って対応⑤2番目の人が勝ちという独自のルール⑥教師の少しの支援

アイデア 44. 「できない時はこうすれば」を増やそう(ルール5より)

「できなかつたらどうしよう」→「できない時は〇〇すればいい」という考えに変える。

例：計算を間違えたらノートの隅に3回書く

「失敗しても〇〇すれば、セーフ」というお守りを持たせる。

参考文献：算数授業のユニバーサルデザイン/志水廣先生、大羽沢子先生

○今後の課題

ここまでで、学級崩壊、ネットいじめ、教室内カースト、授業づくりなど様々な本を読んできて、私の考える居心地の良い学級とは、「一人ひとりが違う良さを持っていることを理解し、相手の気になるところ(自分(達)と違うところ)も受け入れて全員で良くしていこうとする学級」だと定義付ける。しかしまだ曖昧な部分もあるため、より多くの本を読み進め考えをまとめていきたい。